魔法学校で魔銃使い

えび太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法学校で魔銃使い

【Ｎコード】

Ｎ１８８０ＢＡ

【作者名】

えび太郎

【あらすじ】

剣と魔法のファンタジーな世界で、拳銃を手に一之瀬和紀は、魔法学校へ通う。チート的な能力を持った和紀は、盗賊、騎士、魔法使い、ゴブリン、ドラゴン相手に拳銃を突き付ける。

えっ！？、ロボットもでてくるの！？

初めての作品です。

プロローグ　普通な彼は死にました（前書き）

初投稿です。稚拙な文章ですが、よろしくお願いします。

プロローグ　普通な彼は死にました

一之瀬和紀には、今ハマってるＭＭＯＲＰＧがあった。

そのゲームの名は『カオス・ワールド』。

名前の通り、このゲームの中の世界設定は、混沌としていて、剣と魔法のファンタジーな世界にロボットや近代兵器などがでていて、自由度が高くＰＫ推奨で、『転生システム』によって色々な種族に転生できて転生ボーナスによって無限に自分のキャラクターを成長させることができるのだ。

和紀はこのゲームでは最強プレイヤーの一人として有名であった。

ハイレベルプレイヤー達がチームを組んで挑戦するクエストを一人でクリアできる超絶的なステータス、　クリアするのが難しいといわれている、『精霊との契約』クエストをクリアし、火・水・風・土・雷・光・闇の全属性の精霊と契約を交わし、その精霊の力を扱うことができる。

ついた二つ名は、

『チート野郎』

そんな彼、和紀はトラックに轢かれ死亡した。

和紀は、今日、自身が通う高校のガンヲタの友達から、『カオス・ワールド』で使用している拳銃と同じエアガンを借りて帰るところだった。

自分が育てた最強キャラクターが愛用するのと同じ拳銃を持って

テンションが上がらないはずがない。

そんなハイテンションな和紀に、居眠り運転のトラックが突っ込み、和紀は呆気なく死んでしまった。

薄れゆく意識の中、和紀は傍に落ちてたエアガンに手を伸ばし、

「（……ゲームでは…最強なのに……、本当の俺って…弱……）」

伸ばした手の指先に感触を感じた時、和紀は意識を失った。

プロローグ　普通な彼は死にました（後書き）

誤字脱字があった場合、連絡ください。

普通な彼に神様謝る（前書き）

これから出てくる神様のキャラが、ぶれていると思いますが楽しんでください

普通な彼に神様謝る

「どうも、すみませんでしたあああああああ！？」

今、俺の前で土下座してるのは、どうも神様らしい。

神様が言うには、どうも俺が死んだのは手違いらしく、俺の体が無事なら魂を返して蘇生させられるのだが、俺の体はもう手遅れらしく、俺はこの世界では完全に死んでしまった、とのこと。

お詫びとして、他の世界で生きるチャンスをくれると言ってきたので、その提案に甘えることにした。

どんな世界に生きたい、と尋ねられたので、『カオス・ワールド』に似た世界にしてもらう。

その時、世界設定にいくつか条件をつけてもらった　一つ、俺は自分が育てたキャラクターのステータスを持つようにすること、これには装備アイテムも含まれる。　二つ、この世界では近代兵器がないことにする。しかし、俺の持つ装備アイテムはこれに含まれない。

三つ、ロボットはでてこないが、それに似た人型魔導兵器があるようにする。

「では、これからその世界に君を跳ばす」

神様が俺に向かって、杖を振り上げる。

「君がその世界で幸せになることを祈っとる」

そう言った神様は、俺の胸を強く押した。

強く押された俺は、後ろに、たたらを踏み、

一歩、二歩、三歩目がなく、後ろに倒れ込む様に、

神様が開いていた、異世界の門を通過し、

「うぉっ！？っ！！うわあああああああああ」　門を通過した先が、空で、地面へと落下した。

迫りゆく地面を見ながら、

「もう、即デッドエンドじゃね？」

地面に激突し、一瞬で意識を失った。

「神様、先程の彼の人生担当の天使に問いただしたところなんですが」

「なんじゃ？」

「……あいつが最強プレイヤーなんて我慢ならない、とか意味の分からない供述が」

「……」

普通な彼に神様謝る（後書き）

誤字脱字があった場合、連絡ください。

第一章　チートな彼は、ローズを救う（前書き）

戦闘描写が下手ですが、楽しんでください

第一章　チートな彼は、ローズを救う

全身に走る尋常じゃない痛みによって、和紀は目を覚ました。

「がぁっ！！あああああああ！！！」

気でも狂いそうな痛みに、和紀は地面を転げ回る。

しかし、その痛みは数分もしたら消え去っていた。彼が育てたキャラクターの所有スキル『自然治癒』『自然治癒ブースト』が、この世界の彼の身体の奥底に刻まれていて、急速に彼の身体を重傷から軽傷にまで回復させていたからだ。

「……ぐっ、……うぁ……」

けれど、回復するまでの間の痛みは、彼の精神を擦り減らしていた。

意識が朦朧としながら、和紀は立ち上がり、歩き出した。　自分が何処にいるのかさえまだ分からない、この世界の大地を、彼は歩き出した。

ローズ・パケロ・リア・ミリアリアは１５歳の貴族の少女だ。

艶やかな金髪、翡翠色の瞳、小顔で整った顔立ち、スリムな体だ

が出るところはでている。

そして彼女はガブリスト魔法学校の生徒である。

ガブリスト魔法学校はウォルターニア大陸の西側に位置するディスカ王国に存在する名門魔法学校であり、数多くの優秀な魔法使い達を輩出している。

魔法学校へは15歳から入学をするので、ローズは第一学年生なのであり、一年生が習うのはまだ初歩的なことばかりである。

なにを言いたいかと言うと、

ローズは盗賊に襲われて苦戦していた。

「火炎球《ファイヤーボール》！！」

杖から放たれた火の玉は、盗賊達に掠りもしなかった。

「おいおい、掠りもしないって、どんだけだよ」

「頭目、いじめちゃダメですよ～。あの子、泣いちゃいますよ～」

「魔法使えたって、所詮は子供だしな」

にやにやと笑いを浮かべながら、盗賊達はローズの体に粘つく視線を投げかけてくる。

「っ！！」

ローズは盗賊達を睨み返しながら、内心、焦りを感じていた。
さっきの魔法で個有魔力を使い切ってしまっていた。
先日、ガブリスト魔法学校は夏期休暇を迎え、ローズはミリアリア領へ帰省しようと、数人の使用人と馬車で帰る途中、盗賊の襲撃にあったのだ。
自分の後ろには、力を持たない使用人達。
「（……くっ！もう少しでミリアリア家の館なのに！！）」
ローズ、使用人達、馬車を包囲した盗賊達が、今にも襲おうとしたとき、

ガサガサ

ミリアリア家の館への道の端の森から一人の少年が出てきた。
予想外の展開に皆が動きを止める中、ローズは少年の様子が変であることに気付いた。
白い麻シャツに灰色のベストの上に黒色のハーフコートを着た少年は、ふらふらとしていた。
「なんだ、このガキ。見たには殺すぞこの野郎っ！！」

少年の近くにいた盗賊が短剣を振りかざす。

「駄目っ！逃げてっ！！」

ローズが声をあげた時、少年は懐から何かを抜き放った。

少女の声が聞こえた時、和紀の意識はハッキリし、懐から拳銃を抜き放った。

コルトＭ１９１１、通称ガバメントと呼ばれる拳銃は、ゲームの時、和紀によって実弾だけではなく、魔力を弾として放つことができる『魔銃』に改造されていた。

まだ状況が把握できていないまま、和紀は、こちらに短剣を振りかざす盗賊に、魔銃を構える。

直後、砲撃音が辺りに響いた。

魔銃に送り込まれた、膨大な魔力が、銃口から強力な一撃として放たれ、一人の盗賊を跡形もなくふきとばし、勢いを落とさずに傍にいた盗賊をも木っ端みじんにする。

和紀の持つ魔銃が、膨大な魔力を吸い上げ、銃口から放つ一撃は、弾丸の域を超え、もはや業火《ごうか》と言えた。

一撃でふたりも殺したことに、周囲が驚愕によって動きを止める中、和紀は状況を把握する。

「（……ＲＰＧでお馴染みの盗賊襲撃イベントか…）」

和紀は盗賊達のリーダーらしき人物に顔を向ける。
「おい、これ以上犠牲をだしたくなかったら、さっさと逃げな」
和紀のそんな言い方に、反感を覚えることが、盗賊達の頭目はできなかった。
和紀から異様な迫力があるのだ。コイツに逆らったら絶対駄目だと、生存本能が訴えてくるほどに。
「……ちっ！お前ら、ここは退くぞ！」
他の盗賊達も感じたのか、命令が下ると一目散に去っていった。
「……」
和紀は、盗賊達の気配を感じなくなると、緊張を解いた。
緊張を解いたがゆえに、見る余裕がなかったものが、視界に入ってしまった。
一撃を放った時に、巻き添えをくらって死んだ、盗賊の肉片が。
「（……あ、……さっき……俺……人を殺しっ！？）」
自覚した瞬間、和紀の視界は歪み、急激な吐き気が和紀を襲う。
歪みが増す視界の端で、少女がこちらに駆け寄って来るのを認識した時、和紀は気を失った。

第一章　チートな彼は、ローズを救う（後書き）

誤字脱字があった場合は連絡ください。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1880ba/

魔法学校で魔銃使い

2012年1月5日01時54分発行